



1210あかりんアワー 教員が研究の楽しさを語る 第26回(12/11) 古内博行先生推薦 ブックガイド

※掲載されている本はN棟3階ブックツリーのテーマ展示コーナーに配架されます。

Book1 ナチス期の農業政策研究1934-36-穀物調達措置の導入と食糧危機の発生

著者:古内博行 出版社:東京大学出版会

コメント:ナチス農業政策の分析。1934年干ばつの影響を受けてパン用穀物の確保を第一と考えたナチス・ドイツが穀物調達措置を導入した結果、外貨不足のなかで飼料穀物の不足から畜産農業の収縮という事態を招き、それが1935年秋から翌1936年春にかけて畜産・酪農品の食糧危機という体制的な問題に転化する過程分析を行った。ドイツ経済史への接近のなかでドイツの歴史的汚点となったナチス・グロテスクの重大な一断面を浮き彫りにした著書。



Book2 EU穀物価格政策の経済分析

著者:古内博行 出版社:農林統計協会

コメント:戦後ヨーロッパ経済統合の過程で形成される共通農業政策(Common Agricultural Policy)の保護農政の下で保護の横綱格と位置づけられた穀物価格政策が先進国共通の問題である過剰問題の激化に促されて改変を余儀なくされ、保護農政から脱皮していく歴史的改革へと歩む歴史過程を分析。世界恐慌下のナチス農政の分析から問題関心が広がった結果、戦後農政を分析することになり、EU農業問題にアプローチすることになった。



Book3 現代ドイツ経済の歴史

著者:古内博行 出版社:東京大学出版会

コメント:ナチス経済の分析を導きの糸として激動の世紀、20世紀におけるドイツ経済の歩みを描いた著書。ドイツ経済史への接近の問題関心から戦間期のドイツ経済、第二次大戦後の復興を終えた後の「経済の奇跡」といわれる高成長期を経てマイクロエレクトロニクス技術革新に立ち遅れる西ドイツ経済の苦境、東西ドイツ統一後ドイツ経済にも引き継がれる経済の不振を中心に解明した。



Book4 CAP改革の健康診断(Health Check)とボンド・スキーム構想

千葉大学法経学部経済学科

コメント:共通農業政策が保護農政から脱却して歴史的な農政改革の途を歩むことになったが、それが2003年フィッシャー改革を経て健康診断という名の中間見直しに行き着き、2008年11月に欧州理事会で合意を得た経過を踏まえて健康診断の改革性を分析すると同時に直接支払いを廃止するボンド・スキームといった徹底した改革構想が提示されている改革の現状を分析した著書。現状分析に踏み出した以上、流動的な状況をフォローするのは研究者にとって常に課題となる。

